

秋から冬へ 寒さに負けず元気な毎日を

コロナ禍の中で、なかなか行けなかったお散歩も、この秋は、少し出かけることが出来ました。0歳児0・1歳児クラスは、お散歩車に乗って、園周辺や川土手へ行きました。年度初めには、ミルクを飲んで寝ていた子どもたちが、ヨチヨチ歩きで色とりどりの落ち葉の道を探索です。1歳児・2歳児クラスは、お散歩から「ただいま～」と帰ってくると、どんぐりや石ころなど大事そうに握りしめ、お土産を見せてくれます。上クラスの子ども達も、箱崎公園などちょっと遠くの公園までしっかり歩いて、秋のいいもの探しや鬼ごっこで、たっぷり遊んで帰ってきます。青空の下のお散歩は、子どもたちにとって、心がはずむ嬉しい時間でした。

そして、園庭でも今年は秋の恵み、みかん（はっさく）が豊作で、木の枝いっぱいにも実がなりました。もう食べごろだという事で、先日は、くじらの子どもたち（年長児）が、力を合わせて収穫をしてくれました。最初は手の届くところの枝を引っ張りながら、それぞれ、みかんを採っていましたが、木の上の方についているのは、なかなか手が届きません。「さあ、困った。」「どうしたらとれるかな？」子どもたちは

考えます。「手が届かんね。机を持ってきたらいいかな。」「じゃあ、ボクが木に登るけん、ゆらゆらせんように抑えとってね。」などなど、仲間の中で役割分担しながら収穫をしていきます。木に登ってみかんをとる子。しっかりと机を抑えて足場を守っている子。ちょっと離れた雲梯の上から「あと〇個、残っとる。そこ、そこ！」と教えてくれる子。収穫したみかんを受け取り並べる子。並べたみかんを数える子。なんと、全部で〇個も収穫できましたよ。くじらの子どもたちの仲間関係の育ちも見えたみかんの収穫でした。

もちろん、その日の「おやつ」に小さいクラスのお友だちにも配って、みんなで食べました。顔をしかめ「すっぱい」を感じながら、みんなで秋の実りを味わいました。

